

令和2年第16回沖縄県教育委員会会議（定例会）議事録

1 開会及び閉会に関する事項

令和2年12月24日 午後3時開会
午後3時42分閉会

2 出席者及び欠席委員の氏名

(1) 出席者

教育長 金城 弘昌	委員 松本 廣嗣	委員 照屋 尚子
委員 上原 勝晴	委員 山里 清	委員 藏根 美智子

(2) 欠席委員

なし

3 説明のため会議に出席した職員の職氏名

教育管理統括監	儀間 秀樹	教育指導統括監	半嶺 満
参事	佐次田 薫	参事	宇江城 詮
総務課長	山城 英昭	教育支援課長	横田 昭彦
施設課長	平田 厚雄	学校人事課長	屋宜 宣秀
県立学校教育課長	玉城 学	義務教育課長	目取真 康司
保健体育課長	太田 守克	生涯学習振興課長	下地 康斗
文化財課長	諸見 友重	県立学校教育課 特別支援教育室主任指導主事	新垣 ゆかり

4 議事関係

(1) 開会

金城教育長が開会を宣告した。

(2) 議事日程の決定

議事日程は会議資料記載の日程案のとおりとすることが決定された。

(3) 令和2年第15回議事録の承認

全会一致で、令和2年第15回議事録を承認した。

(4) 議事録署名人の指名

金城教育長が、山里委員を議事録署名人に指名した。

(5) 教育長職務代理者の指名

「沖縄県教育委員会会議規則」第2条の規定により、金城教育長は、松本委員に替えて、照

屋委員を教育長職務代理者に指名し、照屋委員がこれを受諾した。

照屋委員は、教育長職務代理者の事務を行う際には「沖縄県教育委員会会議規則」及び「沖縄県教育委員会会議傍聴人規則」の規定による教育長の権限に属する事務を除く事務について、教育管理統括監に専決権限を付与することを宣言した。

(6) 報告事項

報告事項1 教育委員会の権限事務に係る教育長の臨時代理（令和2年度における会計年度任用職員の年次休暇以外の有給休暇の特例に関する規程）

【説明（総務課長）】

資料に基づき、教育委員会の権限事務に係る教育長の臨時代理（令和2年度における会計年度任用職員の年次休暇以外の有給休暇の特例に関する規程）について報告を行った。

【質疑等】

なし

報告事項2 令和3年度特別支援学校高等部入学定員について

【説明（県立学校教育課長）】

資料に基づき、令和3年度特別支援学校高等部入学定員について報告を行った。

【質疑等】

- 照屋委員 2点あります。志願前教育相談についてです。もともと特別支援学校に在籍している中学部の生徒と、地域の中学校に在籍している生徒がいますが、その人数を教えてください。それから、鏡が丘特別支援学校浦添分校と那覇特別支援学校の訪問学級は、コロナ渦でどういう対応になっているのか教えてください。
- 県立学校教育課長 まず、志願前教育相談について、特別支援学校の中学部に在籍する生徒からの相談は165名、地域の中学校に在籍している生徒からの相談は229名となっています。訪問学級の現状については主任から説明したいと思います。
- 県立学校教育課新垣主任指導主事 訪問学級について、鏡が丘特別支援学校においては、資料等を保護者へ送ったり、iPad等でデータをあげてご自宅へ持って帰りして教材を見ていただいています。浦添分校においては、施設側がコロナの対応で厳しいので施設の利用を遠慮していただきたいということで、来られない状況にあると聞いています。加えて、森川特別支援学校では病院で訪問教育をしているのですが、病院に入る職員が制限されていますので、パソコンを使って本校からリモートで1時間ごとに授業をしていると聞いています。
- 照屋委員 森川特別支援学校の院内学級は授業をリモートで対応しているということですか。

- 県立学校教育課新垣主任指導主事 はい。
- 照屋委員 地域の中学校に在籍する生徒からの事前相談は去年より増えていますか。
- 県立学校教育課長 地域からの志願前教育相談ですが、昨年度と比較して 26 名の減となっております。これにつきましては、各校長先生方に聞いたところ、やはり不本意で入学する生徒がこれまでもあったので、しっかりした進路指導を行うように各校長先生方が各中学校へ回られてお話ししたと報告を受けています。
- 蔵根委員 私も今年は特別支援教育の悉皆研修に参加させていただきましたが、前半できちんと校長先生たちも今の話をしている、すばらしいと思いました。少し話が違いますが、真和志高校のゆい教室についてです。先日県教委で訪問しまして、島尻特別支援学校との交流学习を見ました。ゆい教室を作るに当たって真和志高校の先生方もいろいろ不安ではあるが努力しているということも聞きました。4月から研究に入るとおっしゃっていましたが、ぜひ、子ども達が希望する学校へいけるような体制を私たちは考えていかなければならないと思います。以上です。
- 県立学校教育課長 ありがとうございます。

報告事項3 新たな史跡、天然記念物の指定並びに、史跡の追加指定と新たな登録記念物（名勝地関係）、登録有形文化財（建造物）の登録についての報告

【説明（文化財課長）】

資料に基づき、新たな史跡、天然記念物の指定並びに、史跡の追加指定と新たな登録記念物（名勝地関係）、登録有形文化財（建造物）の登録について報告を行った。

【質疑等】

- 山里委員 今回多くの文化財等が指定されてとてもよかったと思っております。去年の首里城焼失でもそうですが、こういった文化財や天然記念物は、失って初めてその価値が再認識されます。県内外いろいろなところから残念だという声があり、それからいろいろな支援が今でも続いているということで、無くなってわかるということが身にしみて感じた事例だと思います。特に沖縄は、沖縄戦があつて本当に貴重な文化財を喪失したが、戦禍を免れてこういうかたちで残った史跡があるというのは嬉しいと思っておりますし、今後ほかにも史跡が見つかると思うので、こういった指定や保存は頑張ってくださいと思います。
- 文化財課長 はい、わかりました。
- 蔵根委員 當山記念館についてですが、2018年のハワイプラザオープンの際に、ハワイセンターのところに大きな當山久三の像があり、現地の移民の方々はそれを大変誇りにしていました。ですから、このように文化財として登録されたということはすごく嬉しく思います。お疲れ様でした。ますます頑張ってください。

○文化財課長 當山氏は教員だそうで我々の先輩にあたります。ありがとうございます。

(7) その他

【松本委員退任挨拶】

私の教育委員の任期は、副知事の教育庁人事介入騒動で始まりました。そしてまた4年後、このコロナ禍に見送られるという、そういう華々しく楽しい4年間だったのですが、可能な限り教育のド素人という立場を堅持していこうと思ひまして、そのためのいろいろな質問や意見等があったので、職員の皆様及び委員の皆様には非常に多大なご迷惑をおかけしたのではないかと思います。ですが、私にとってみれば教育というものを振り返る、本当に良い機会を与えていただいたと思っております。

米作農業、あるいは繰り返す災害が多い日本という、そういうものが生み出したのかよくわかりませんが、日本人の長所は協調性とよく言われます。こういうコロナの時でも「協力お願いします」と言うと、みんな一生懸命やってくれるわけです。そういう協調性というものは非常に素晴らしいと思いますが、それと同時に、そこには同調性を求めると言いますか、それが負のパワーを与え、いじめだとかいろいろな問題にも繋がります。そういうふうな環境、そういうふうな条件、これは日本人のあらゆる行動パターンの根底にあるような気がするのです。そんな単純なものではないということではありますが、ただ、いろいろ考えていくと、かつて人は行く川の流れと例えた故事もありました。確かに流れも、そこに浮かぶ泡沫も、いつも同じでない。しかしそれを入れている物、つまり川は、多少の変化はあったとしても常にそこにあるのです。よく「流れ」でいろいろ説明するのですが、「流れ」ではない。流れていかない「川」そのものがある。そして、こういうものが戦前戦後の教育も見かけは様変わりしたように思うのですが、実際上は何にも変わっていないのではないかという気がするのです。その中のひとつとして、みんなで一緒に入学して、進級して、卒業、そして会社は違いますが一緒に入社する。退職するときにはいろいろ変わっていくのだと思いますが、こういう社会の動きはあらゆるところであるような気がします。それにより起こってくる良い点もいろいろありますが、悪い点もたくさん挙げられている気がするわけです。ですから、この時代にもっと違った姿に変わるべきではないだろうかと思います。それがコロナ禍でようやく変わりそうな気配がしていると私は思っています。

IT立国などと言いながら、蓋を開けてみたらもう世界中で恥をかくようなレベルになっていたということに、国もやっと気づいてくれた感じです。今動こうとしていることがどのような結果になるかわかりませんが、そのITの推進に今すぐ期待することが幾つかあります。一つは、個別に特化した教育の実現です。文科省や中教審もそういうこと言っていますが、これを実現することが大事だと思います。次に、与えた学習内容ではなくて、本人が身につけた学習レベルを記録することと、それを評価すること。今の学歴社会の中では、どこの大学を出たからあの人は優秀とかそういう話になっていますが、その人がその大学で何を手に入れたか何もわからない。そういうことではいけないだろうと思うのです。しかしIT化が進めば、この子は小さいときから大人になるまでずっとどんなものを

学習したのかわかるわけで、そういうものがあればもう大学入試なんていらなんでしょう。そういうものをきちんと評価すれば、この人にはそれだけの能力がある、だから受け入れることができる、というような状態になっていきます。我々が高校生や中学生くらいのときにあった受験戦争では相当いろんなものを犠牲にしてきたという記憶もありますが、そういうものが生み出した社会の病理というのはたくさんあるのです。それはいまだに残っているし、そういうふうなものも変わっていくかもしれない。それに随伴したすべての問題が解消すると考えるのは非常に楽観的すぎるのかもしれませんが、かなりの部分が改善するのではないかと思います。

さらに期待するのは、幼児から大学院までの、教育の無料化です。無償化ではなく無料化。個人にはお金がかからない。国がそれを全部負担してやるのです。そして、義務感ではないシステムに変えることによって、勉強したいと思ったときにいつでもやり直しできるような教育システムを構築する。やはり勉強したくない人もいます、嫌いなのです。しかし、生活をしていくうちにどんどん苦しい、大変と気が付いて、もう1回やり直そうと思ったとき、今の日本ではとてもやり直しはきかないです。私は医者ですが、医者は潰しがきかない職業だと言われています。本当に潰しがきかないのでしょうか、やはり他の何もできないわけです。これしかできない、そういうふうなものではなくて、いや、俺はやはり医者は向いていない、料理人がやりたいと思ったら、料理人になっていく過程がまた提供されている。そのような、いつでもやり直しがきくような社会というのを、きちんと作っていく必要があるのではないかと思います。

これから先、この時代はAIの絡んだコンピューターシステムというものが物凄い勢いで加速されていくのだらうと思います。教育は100年の計と言いますが、これから先は非常に早いと私は思うので、50年、いや、20年ぐらい先でも良いです。できればこの目で、その変化を見てみたいと思っております。この4年間、本当にありがとうございました。

【金城教育長挨拶】

松本委員、4年間ありがとうございました。教育委員会会議では、医療ですとか療育の分野で専門な知識や他の経験などを生かしていただきご意見いただきました。会議で言えなかったことは勉強会などで様々、ご示唆に富んだお話を伺うことができました。今日もかなり大きな課題、日本の教育制度のあり方に対するご意見をいただきました。教育委員制度は、レイマンコントロールの仕組みが導入されたものということで、いわゆる県民視点で教育を考えていくという仕組みになっていますので、委員を退任されたあとも引き続き、沖縄の教育行政、教育制度にいろいろなご意見をいただきたいと思います。4年間ありがとうございました。お疲れ様でございました。

(8) 閉会

金城教育長が閉会を宣言した。